

静岡県漁業協同組合連合会

1077 静岡市追手町 9-18

16.1.23 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成14年の水産業生産指数 96.6に低下

農林水産省では、平成14年の農林水産業生産指数を発表しました。この指数は農林水産業の生産量をマクロ的、長期的に示す指標として毎年作成しているもので、平成12年を基準年(100)としています。

それによると、農林水産業生産指数は総合で96.8となり、前年に比べ1.2%低下し、水産業生産指数は海面養殖業以外の部門で低下したのに伴い、水産業の指数は96.6で1.1%低下しました。部門別にみる指数は次のとおりです。

海面漁業：生産指数92.7、前年比2.7%低下(カタクチイワシ、ビンナガ、マス類などの漁獲量が増加したものの、キハダ、ブリ類が減少)

海面養殖業：生産指数107.3、前年比3.5%増加(フグ類、カキ類、コンブ類の収穫量が減少したものの、ブリ類、ホタテ、板ノリなどの収穫量が増加)

内水面漁業：生産指数94.7、前年比3.4%低下(サケ類、シジミなどの漁獲量が増加したものの、アユ、ウナギ、シラウオなどが減少)

内水面養殖業：生産指数87.9、前年比7.9%低下(ウナギ、アユ、などの収穫量が減少)

なお、農業の生産指数は97.2で米や野菜などが低下したため前年に比べ1.1%低下、林業も91.6で3.4%低下しました。

2. キンメダイ漁業の町稲取で、「こどもと魚体験ツアー - 」開催

1月10日(土)快晴の稲取の浜は、東京北区の滝野川と谷端小学校20名の子供達の笑顔で一杯になりました。キンメダイの美味しさやキンメダイ漁業と漁村のすばらしさを東京の子供達に知ってもらおうという「こどもと魚体験ツアー - 」が、静岡県の助成を受けて、東京のウ - マンズフォ - ラム魚(WFF)と稲取漁協の協力で開催されました。

当日バスで到着した子供達を出迎えた漁協女性部の浜のかあさん達は、既に11月5日と18日に東京へ出かけて、それぞれ100名近い子供達や父母にキンメダイのサバキ方を伝授し、美味しい煮付けを一緒に作って食べ、すっかり仲良しとなっていました。今回は20名のこども記者が稲取のキンメダイ情報を集めにやって来たものです。

子供達は公民館でキンメの味噌汁と黄飯のおにぎりを食べ、稲取の青年漁業士からキンメ釣りの道具やキンメ漁師の生活、キンメダイの生態の話聞いた後、漁師さんの年収はどのくらい等と厳しい質問をして記者魂を發揮していました。その後3隻のキンメダイ漁船に分乗して紺碧の伊豆の海に乗り出した子供達は、同乗した漁師さんの話や伊豆の雄大な自然に目を輝かせていました。

また、漁師さんの家にホ - ムスティし、魚市場と朝市の見学、地元の小学生との交流など1泊2日の漁村体験で、楽しい思い出と稲取の漁師さんのキンメダイとその漁業にかける熱い思いは子供達に十分に伝えることができたと思います。

この成果は、来る2月22日(日)に、東京北区の北とぴあ・飛鳥ホ - ルで開催される「こ

ども・海とサカナのフォーラム」で発表される計画です。子供達は伊豆の自然と漁村の豊かさと共にキンメダイとそれを釣る漁師さんのすばらしさをも東京の人々に届けてくれるものと思います。

3. サクラエビ秋漁の水揚げ469トン・8億981万円

県水産試験場が、このほどまとめたサクラエビ秋漁は10月30日から12月24日までに14日の操業が行われ、蒲原、由比、大井川の3港に総計469トンの水揚げがあり、水揚げ金額が8億981万円となりました。

これは、前年秋漁を漁獲量で81トン(20.8%)上回ったものの、金額では3億8463万円下回り、平成に入ってから秋漁として、漁獲量では前年に次いで2番目に低く、金額では平成9年に次いで下位から2番目となりました。

出漁日数では、昭和49年からの平均出漁日数の24日を大きく下回り平成8年と同日数で2番目に少なく、1日平均水揚量でも33トンと同平均の44トンを下回る低水準となりました。また、漁期平均単価はキロ当たり1,724円と同平均1,284円を上回りましたが、前年の3,073円は大幅に下回りました。

出漁は10月に2回、11月は凧の日が少なく上旬・中旬各2回に止まり、12月は上旬5回、中旬2回、下旬1回となりました。漁場は、当初三保沖を中心に操業しましたが、12月初旬以降は大井川沖を中心に操業が続きました。なお、1日の漁獲量は最低13トン、最高70トンの間を推移し20~30トン台が中心となったほか、1日平均のキロ当たり相場は、1,577~2,055円でした。

また、春・秋両漁期を合わせた年間水揚げは1,923トン、40億5511万円で前年を量では219トン上回りましたが、金額で418万円下回るほぼ同程度になりました。

4. 全国主要漁港水揚統計 焼津漁港が24万2千トンで全国1位

農林水産省がまとめた全国主要漁港水揚げ統計によると、焼津魚市場の平成15年の年間水揚げ量は21万3千トン(前年比6%減)で全国2位となりました。

焼津漁港の平成15年の水揚げは、焼津魚市場が数量21万3277トン(前年比6%減)、金額420億3160万円(同12%減税込)、小川魚市場が数量2万9547トン(同25%増)、金額29億9508万円(同2%減税込)で、2市場合計の漁港別で日本一の水揚げ数量となりました。産地市場別の水揚げ数量では、銚子が1位となりました。

焼津魚市場では全般的に漁獲不漁に伴い水揚げ数量が減少し、上半期の安値を下半期に戻したものの、単価は年間を通じ前年比6%安となり、海巻、釣りの南方・東沖の冷凍カツオが、希望する魚質に合わないことなどから魚価安となりました。

また、小川魚市場は近海巻網船のゴマサバ、イワシ、サバ棒受船のゴマサバ水揚げ増などで数量は大幅に増えましたが、ゴマサバが加工・飼料向けが多く単価安になるなど、総体的に価格安で金額は伸びませんでした。

5. 諸会議日程(1月27日(火)~2月9日(月))

- 既報分省略 -

1月30日(金) 県桜えび漁業組合 = 監査会 (県水産会館)

2月5日(木)~6日(金) 県しらす船曳網漁業組合 = 監事会・役員会・通常総代会 (館山寺)

2月6日(金)~7日(土) 県漁青連 = 監事会・役員会・第43回通常総会・研修会 (松崎)